

第8回総務部会 会議報告

日時:令和8年7月21日(火)

18時00分～18時45分

場所:岡谷西部中学校応接室

○次第

1. 開会
2. 校名について
3. 校章・校旗・校歌について
4. 式典について

○配布資料

- ・川岸学園義務教育学校及び認定こども園の名称について
- ・川岸学園義務教育学校開校式典の検討について
- ・岡谷市3小学校統合記念式典(参考)

○会議の内容

①川岸学園義務教育学校及び認定こども園の名称決定について

- ・名称の最終案を公表して実施した市民からのパブリックコメント(合計13件)の結果を踏まえ、以下の通り名称が正式決定したことを報告しました。

◇義務教育学校……岡谷市立川岸学園義務教育学校

◇認定こども園……岡谷市立かわぎし認定こども園

- ・パブリックコメントでは、名称案に対する概ねの理解が得られた一方、「川岸」の重複や新鮮さに欠ける点、正式名称が長く日常的に使いにくい点、「義務」という言葉の硬い印象についての意見があった。

→公募において「川岸」を残してほしいという声が多かったため、両施設に地名を含めたこと、また条例上の正式名称には法律上の種別である「義務教育学校」を規定する必要があることを説明。

- ・日常的な呼称としては、子どもたちにも親しみやすい「川岸学園」を愛称として使用していく方針。

・今後は、本年9月市議会に関連条例案を提出し、最終決定となる予定です。

②新しい校章・校旗・校歌について

- ・開校2年目(令和10年4月)の新しい校章・校歌の使用開始に向け、逆算したスケジュール(本年夏休み明けからの具体的な動き出し)が中学校側から報告されました。

・校歌はプロへの制作依頼(約 3～6ヶ月を想定)を前提としつつ、子どもたちの願いや思いを汲み上げるため、歌詞に取り入れたいフレーズやアイデアの募集を2学期当初(夏休み明け)から小中学校で開始する予定です。

・校章は、子どもたちがデザインした原画をベースに、プロのデザイナーが整えるプロセスを想定する。令和9年度予算として、「校章デザイン」「校歌作成」「校旗作成」にかかる作成委託料を計上する。

③開校式典の検討について

・資料 No.2を基に、前提条件やプログラムの素案、および主な検討事項(開催場所、日程、愛唱歌の選定、来賓の範囲等)について協議を行った。

・本学園では「子どもたちとともに学校を創るプロセス」を重視し、校歌・校章を開校後に制定するため、一般的な開校式典で行われる「校旗授与」や「新校歌の披露・斉唱」を開校時点では実施しない。

→式典の基本コンセプトを「完成された学校の誕生を祝う場」ではなく、「新しい学校をこれから子どもたちとともに創っていくという決意表明の場」として位置づけ、プログラムを検討していくことを確認。

○会議で出た意見について

①名称決定について

・日常的に「川岸学園」という聞き慣れた愛称が使われることで、子どもたち自身も安心して新しい学校生活になじむことができるため、非常に良い判断である。

②校章・校旗・校歌について

<子どもたちの主体的な関与>

・校章や校歌を子どもたち自身の手で創り上げていくというプロセスは、川岸学園構想の理念に合致しており、大変望ましい。中学生だけでなく、小学校の高学年(5・6年生)にも声をかけ、合同で主体的に参加できるような枠組みを検討していく。

<卒業式への対応(スケジュールの前倒し)>

・開校2年目の4月(令和10年4月)までに校歌・校章の制定という話だったが開校1年目の卒業式(令和9年度末)に校歌や校章が間に合えば、卒業証書への掲載や、初めての卒業生が新しい校歌を歌って巣立つことができるため理想的であるとの意見が出されました。

→スケジュールの前倒しを視野に調整していく。

<立体デザインへの配慮>

・校章は、卒業証書などの2次元的な活用だけでなく、玄関や校舎に掲げる立体的な彫刻等としての活用も想定されるため、デザイナーへの発注段階でこれらの展開を見据えた調整が必要。

③開校式典の検討について

<開催場所について>

・大規模改修により生まれ変わる川岸小学校(前期校舎)の体育館は、新しい学校のメモリアルなイメージを持たせるためにも最もふさわしい会場であり、収容人数(1年生を除く児童生徒約400名と教職員等)からも問題なく実施可能

であるため、同会場での開催を前提に検討していく。

<愛唱歌(斉唱曲)の選定について>

・開校時点で正式な校歌がないため、児童生徒や出席者が一体感を持てる楽曲の選定が必要。候補として、小学生・中学生ともになじみが深く歌詞も素晴らしい「ビリーブ(Believe)」が提案された。

→大人が一方的に決定するのではなく、小中学校の音楽教諭に相談の上、いくつか提示した候補曲の中から中学生(子どもたち)に主体的に選んでもらう等のプロセスを踏むことが望ましいとの意見で一致。

<開催日程について>

・4月1日に限定せず、他校の入学式日程や、保護者の送迎負担(こども園の入園式等との重複回避)、新学期当初の教職員や子どもたちの負担を考慮し、最も無理のない日程を両校長と相談して早期に決定する。

・新9年生(中3)の修学旅行が4月2週目に計画されるケースがあるため、日程が遅れると事前オリエンテーション等に影響が出る懸念があるため、早期のスケジュール確定をしていく。

<来賓の範囲について>

・過去の統合式典(カノラホール開催)の事例も参考にしつつ、来賓の範囲を広げすぎると今後の学校行事(運動会等)での招請範囲に不公平感や波及が生じる恐れがあるため、日常の卒業式・入学式の来賓(学校評議員、地域代表等)を基準とし、次回の部会にて協議を行う。

○今後の進め方

<校章・校歌のアイデア募集>

各学校において夏休み明けから、子どもたちへの希望聴取や有志集めなど、具体的な動き出しを開始していく。

<開校式典の調整>

今回の部会での意見を踏まえ、事務局が両校長と日程の調整を行い、併せて来賓リストの素案作成を進める。

○次回の予定

日 時: 令和8年9月29日(火)18時00分～

場 所: 岡谷西部中学校応接室(予定)